



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

- | | | | |
|---------------------------|-----|--------------------|-----|
| ●平成23年度第1回理事会・評議員会開催…………… | 2 | ●私の生涯学習…………… | 4～5 |
| ●第4回ほっかいどう学検定実施のお知らせ…………… | 2 | ●かでの移動講座のお知らせ…………… | 5 |
| ●これからの生涯学習を展望して…………… | 3 | ●随想14…………… | 6 |
| ●わがまちの生涯学習…………… | 3～4 | | |

平成23年度第1回理事会・評議員会開催

5月27日、平成23年度の第1回理事会、評議員会が開催され、宇田川会長の挨拶に続き議事の審議に入り、「平成22年度事業報告」及び「平成22年度収支決算、監査報告」などが提案され、原案どおり承認されました。

また、「新法人移行」に関わる「北海道生涯学習協会定款（案）」が提案され、原案どおり承認されましたので、今後北海道関係課と協議を始めて、認定申請に向けた事務を進めることとなりました。



平成22年度収支計算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単価：円)

科 目	一般会計	道立生涯学習推進センター事業 受託特別会計	北海道体育指導 委員協議会事業 受託特別会計		内部取引消去	合 計
I 事業活動収支の部						
1 事業活動収入						
① 基本財産運用収入	43,000					43,000
② 事業収入	1,689,000					1,689,000
③ 受託事業収入		42,000,000	1,030,000			43,030,000
④ 会費収入	1,580,000					1,580,000
⑤ 補助金収入	7,407,000					7,407,000
⑥ 寄付金収入	200,000					200,000
⑦ 雑収入	30,000					30,000
⑧ 借入金収入	2,913,466					2,913,466
⑨ 繰入金収入	7,851,838				△ 7,851,838	0
事業活動収入計 (A)	21,714,304	42,000,000	1,030,000		△ 7,851,838	56,892,466
2 事業活動支出						
① 管理費	4,000,921					4,000,921
② 事業費	9,440,008					9,440,008
③ 受託事業費支出		37,911,628	960,291		△ 850,000	38,021,919
④ 繰入金支出	2,913,466	4,088,372			△ 7,001,838	0
⑤ 借入金返済支出	2,913,466					2,913,466
⑥ 補助金(委託費)返納支出			69,709			69,709
事業活動支出計 (B)	19,267,861	42,000,000	1,030,000		△ 7,851,838	54,446,023
事業活動収支差額 (A) - (B)	2,446,443	0	0	0	0	2,446,443
II 投資活動収支の部	0	0	0	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	2,446,443	0	0	0	0	2,446,443
前期繰越収支差額	6,568,219	0	0	0	0	6,568,219
次期繰越収支差額	9,014,662	0	0	0	0	9,014,662

第4回 「ほっかいどう学検定」実施決定！

「ほっかいどう学検定推進機構」主催の検定実施が決まりました。

- 検 定 日：平成23年10月30日（日）
- 検定会場：札幌会場（北海道札幌南高等学校）及び石狩を除く13振興局（旧支庁）所在地
- 申込期間：平成23年7月1日～9月30日
- 詳細は、各市町村の公共施設の窓口に設置しているリーフレット（申込書付き）でご確認ください。
- 問い合わせ先：「検定推進機構事務局」（協会内）電話：011-204-5780

「これからの生涯学習を展望して」

北海道生涯学習審議会会長 木村 純

(北海道大学高等教育推進機構 教授
生涯学習計画研究部門長)

3月11日に起こった東日本大震災と東京電力福島発電所大事故とその後の事態は、これからの社会教育を基軸とした生涯学習がどうあるべきかを私たちに厳しく問うています。

原発の30キロ圏外にありながら放射能汚染で全村避難となった人口6千人の福島県飯館村は「までいの力」を基礎に、社会教育により育まれた住民の自治的力量が住民参加の村づくりを支えてきました。「までい」とは、現地の方言で「丁寧に、じっくり、心をこめて」という意味で、北海道では「までい」という言葉に相当しますが、飯館村の村民は、人と地域のつながり、家族のきずな、地域にとって大切な「食」と「農」、人づくりを「までいに」取り組んできたのです。

村のお嫁さんたちをヨーロッパ海外研修に派遣する「若妻の翼」は、公民館主催の「夫婦共学ゼミナール」等への参加によって、農家の女性が、自分の人生をつくるには夫や家族と向き合わなければ何も進まないということに気づく取り組みでした。また、「あなたにつなぐ飯館絵本リレー事業」は書店も図書館もなかった村に子どもたちが本に親しむ機会をつくるために、村営の本屋さん「ほんの森いいたて」を開設し、利用されなくなった絵本を譲り受け、絵本に親しむ子どもを育むことを通して「までいな心」を受け止めて「感謝の心や思いやりのある心豊かな人」になって欲しいとの願いを示したものです。

公民館長の経験がある菅野典雄村長は「高齢化が進み、畜産農家が多く、コミュニティを基礎にした村づくりをしてきたことから、生活のかたちを崩さないまま避難するのは難しい」と語っていますが、米や酪農、花卉等をなりわいにしてきた農家にとって「避難」は生活の基盤を失うだけではなく、大地の実りを産み出してきた知恵や技術が水泡に帰す可能性もある深刻な事態ですが、村民が「までいの力」を発揮して、飯館村の未来を切り開くとともにその取り組みへの全国的な支援が期待されます。

今、社会教育は、第1に、住民が主体となる地域の復興をすすめる「学び」の場をつくりだすこと、第2に、避難所で生まれる自治活動など被災した人々の経験や防災教育における「学び」や「新たな知」を発見し、そこから学ぶこと、第3に、大量生産、大量消費の生活が首都圏への過度な集中と原子力発電に依存したエネルギーの浪費をもたらしていることや農林漁業の衰退をもたらしていること、これからのエネルギー政策について国としてどう取り組むべきか等の「大問題」と正面から向き合い、学習することが課題となっています。

被災地の支援も、復興には長い時間を要することが予想されます。被災地に赴き、直接実態を知り、支援を行うことも含め、継続的な支援の中から地域づくりの「知」を学ぶことが求められます。それは、大震災の影響を受けて、観光業などをはじめ地域経済が深刻な影響を受ける北海道の地域を考える場合にも大切な課題と方法となるにちがいません。

わが町の生涯学習

当麻町教育委員会

当麻町は、明治26年に屯田兵が入植して開拓された町である。以来、農林業を基幹産業として「フロンティアスピリッツ」の精神は脈々と受け継がれ、今日に至っている。

近年、でんすけすいかやバラ・菊等の花卉栽培、米の総合評価12年連続北海道一に輝くなど、今もなお発展を続けている町である。

本町では、平成2年度から生涯学習推進体制を整備し、「当麻町総合開発計画」の4本柱の一つに「生涯学習によるまちづくり」を据え、地域住民・行政・各学習機関が連携を深めながら多様な学習活動を推進している。

その中から近年大きな成果を上げている「生涯学習フェスティバル」を紹介したい。

本事業は、町民の生涯学習の成果を発表する場であると共に、町民同士がつながり合い心豊かに生き生きと学び合う「生涯学習によるまちづくり」を推進するための重要な機会として平成8年から開催してきた。



芸能発表と展示作品を同一会場にした様子

毎回検討を加える中で、一定の成果を上げてきたが、①文化連盟主催の「文化祭」的な色彩が強く、住民の多くは観客として見る立場にあった②展示・発表の会場、開催時刻が分散していたため、盛り上がりには欠けた③実行委員会の主体的な活動が不十分で住民の声が反映されにくい等の課題を抱えていた。

そこで、三年前、「住民参加型フェスティバル」への転換を目指し、次の改革を試みた。①実行委員選考範囲の見直し②開催場所・時間の統合③体験・参加型のフェスティバルへ。

実行委員をより広く、各地域・各層から年代も考慮して委嘱し、4ヶ月前から実行委員会を立ち上げ、その活性化に努めた。そのことにより行政依存から脱却し、アイデアに富んだ主体的な活動となった。また、公民館分館や青年会議などからも多くの人達がサポートメンバーとして当日の運営を支えてくれたことも嬉しいことである。

スポーツセンターアリーナに特設舞台を組み、芸能発表と作品展示を同じ会場にしたことも正解であった。高齢者や体の不自由な人達からも喜ばれ、人の流れも劇的に変わり大変多くの来場者で賑わっている。文化連盟以外からも多数の町民参加があり、多様なプログラムの中で来場者が楽しみながら体験している場面も沢山見ることができた。

三年目の昨秋（文化の日）はさらに進化を遂げた内容となり、朝から晩まで人出が途切れることのないフェスティバルとなっている。今年の秋も楽しみにしているのは私だけではないであろう。

（教育長 糠谷 仁一）

私の生涯学習

北海道女性団体連絡協議会会長

中田 和子

（北海道生涯学習協会副会長）

生涯学習協会の運営に参加させて頂く中で、道民カレッジに参加なさる方々の単位を積み重ねていかれる向上心とご努力に、心からの敬意を表したいと存じます。

私が社会人となった昭和30年代、成人学校という社会教育の一環の講座開設があり、社会人一年生として必要に迫られて簿記講座を受講、社会人対象ですので、夕方からの開設で、世代や仕事も異なる人たちとの出会いは興味深く新鮮なものでした。

この頃は、生涯学習という言葉は使われていなかったと思いますが、周りの先輩達からは、「人生は死ぬま

で勉強」と聞かされる中で、日頃知っておくべきことも多い年頃でしたし、特に家族が出来たことで身近な他人との生活では、好みの異なる食生活の工夫を始め、子育てに関する多くの知識も身につける必要が生じて来たりと、確かにいつも何かを学ぶ種は蒔かれているものと実感もいたしました。

現在の地域社会は、人との触れ合いが薄れ、ご近所さんとのお付き合いも敬遠されがちとなりましたが、その頃の私にとってのご近所さん達は何かと頼りになる存在であり、人生の先輩として学ぶべき事を持った方が何人もおいでになりましたので、基本的な社会性を不十分ながらも身につけることができ、ありがたい環境だったと思っております。

そんな中での、町内会婦人部へのお誘いで始まった団体活動では、組織での決め事や仲間との交流で得られる情報の多さなど、様々に学べたことが現在まで役立っていることも多いのです。

道民カレッジの無かった時代の私の生涯学習ではありますが、時代は急テンポで変化しております。キーひとつを指一本の操作で世界とも繋がる今日、孫に「メル友しよう」と言われ、「目が良く見えない」と逃げの一手を決め込んで現実から目をそらしている今の私にとって、道民カレッジを継続しておられる方々は、とても眩しく感じられるこの頃なのです。

平成23年度かでの移動講座が開催されています！

北海道生涯学習協会では、今年度も各道立教育施設のご協力を頂いて、学習講座の提供に努めております。実施日時や講師等は次のとおりです。

また、今年度は机に向かう学習にプラスして、野幌自然公園や北大博物館など野外フィールドを使った学習を新たに計画しています。詳細が決まり次第お知らせしますので、是非ご参加ください。

(1) 5月13日 (金)	久米 淳之 (北海道立近代美術館主任学芸員)	【終了】
	講演テーマ 「北海道美術にみる出会いと創造」	
(2) 6月 5日 (日)	内田 弘 (北海道歌人会代表代行)	【終了】
	講演テーマ 「斎藤茂吉と北海道」	
(3) 6月17日 (金)	苫名 直子 (北海道立近代美術館学芸員)	【終了】
	講演テーマ 「三岸好太郎の世界—道化・サーカス・人形劇」	
(4) 7月 3日 (日)	斉藤 征義 (詩人・「宮澤賢治学会」理事)	
	講演テーマ 「宮澤賢治について」	
(5) 7月22日 (金)	石尾乃里子 (北海道立近代美術館学芸員)	
	講演テーマ 「むじゃきなコレクション」	
(6) 7月27日 (水)	畑 宏明 ((財)北海道埋蔵文化財センター常務理事)	
	講演テーマ 「世界文化遺産と北の縄文遺跡」	
(7) 8月 7日 (日)	館野 直光 (ナレーター・元NHKアナウンサー)	
	講演テーマ 「声を出して読む本の楽しさ」	
(8) 8月24日 (水)	藤井 浩 ((財)北海道埋蔵文化財センター普及活用課主査)	
	講演テーマ 「北海道・遺跡発掘物語」	
(9) 9月14日 (水)	藤井 浩 ((財)北海道埋蔵文化財センター普及活用課主査)	
	講演テーマ 「竪穴住居入門」	
(10) 10月13日 (木)	樋泉 綾子 (本郷新記念札幌彫刻美術館学芸員)	
	講演テーマ 「本郷新の彫刻とその魅力について」	

随想14

水戸黄門の話

食文化研究家の小菅桂子さんが「隠れグルメ水戸黄門様」という随想を書いているが、その中からお酒にからむ部分を今回紹介する。

黄門様がこよなく愛したのはまずお酒である。何を隠そう！黄門様、実は「イッキ呑み」の元祖とのこと。その呑みっぷりたるや「いかほどの大盞にても、一息にのみ尽し給ひて」と侍医も真っ青。黄門様は一人静かに晩酌をというのは大嫌いで常に賑わい酒を歓迎したそうである。

民俗学者の柳田國男によると「晩酌」というのは、明治大正時代に生まれた新しい風習で、本来酒はたくさんの方が集まって一緒に飲む-集飲するものであった。さかのぼれば祭りの際に神と共に一つのカメの酒に酔うということが飲酒のおもしろさの源と考えられる」という。黄門様のお酒はまさに「集飲」であった。それも「夜二入テ御そばきりいづる。御前二も御酒三斗上るなり…暮テ御酒まゐる。…御酒も例よりすすませ給ひて、奥に入せられて、人々めして御酒つぎ給ハる。…今日は雨中御さびしきに、よく来り侍るとて、御前めして、夜に入テ御酒まゐる」。60歳を過ぎて

この元気であったという。では二日酔いはしなかったのかということそんなことはなかったそうだ。時には「一昨日は致大酒無十方躰二而、御はずかしく候…実は夕べのことは飲みすぎてよくおぼえていない。いとまごいもしないで失礼した」。飲み友達に宛てたこのようなほほえましい手紙も残されているとのこと。

晩年の黄門様は人里離れ隠居暮らしであったため、とくに春の訪れを心待ちにしていたのであろう。そこで春の気配が感じられると、自ら西山荘の庭である野や山に入り、山菜を摘み季節を愛で酒を楽しんでいる。

このように大変なお酒好きの黄門様は山菜で酒を楽しみ、鯨の塩漬けや汁ものも好み、鯉の季節には自ら舟を出したとも言われる。秋には「初鮭振舞い」と称する鮭を肴にした宴を繰り広げるのを恒例としたそうである。お酒の仕上げには麺類やお茶漬けも好んだという。麺類は自分で打って自ら家臣に振る舞い「黄門うどん」と名付けられたとされるほどであったらしい。

そんな黄門様のような人が現代もいることに自己満足している私である。

(財) 北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新会員紹介

次の方々が新たに賛助会員になりました。
今後ともよろしく願いいたします。

個人会員

- ・川 口 繁 光 (札幌市)
- ・立 野 賢 次 (岩見沢市)
- ・吉 田 孝 志 (恵庭市)
- ・十 河 昌 寛 (江別市)
- ・丹 羽 則 孝 (札幌市)

訃報のお知らせ

当協会の前会長でありました

新 谷 淳 治 氏が

平成23年6月5日午前7時11分
行年83歳でご逝去されました。
謹んでお知らせするとともに
心からご冥福をお祈りいたします。

編 集 後 記

- ・今日の北海道の社会教育の礎を築かれた新谷生涯学習協会前会長がご逝去されました。これまでのご功績に感謝を申し上げるとともに、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。
- ・前会長は、役員会等の用務で出札の度、よく事務局職員に声をかけて「夜のすすきの」を会場に、社会教育の議論をしたと伺っております。
- ・酒の宴も深夜になり、誰とはなしに「そろそろお開き」と言うとう、いつも決まって「あと10分、あと10分散は待ってくれ」と言われるのが口癖だったそうです。
- ・結局、当時の職員は朝までお付き合いをすることになり、本

- 当の二日酔い？の状態勤務したと伺いました。
- ・ご遺族の挨拶で、ご長男が、「母からの急変を知らせる連絡に、自宅から2～3分で病院に駆けつけたが、父は10分どころか2分も待ってくれずに逝った。」とお話をされていました。
- ・新谷さんのことだから、「あの世」の社会教育のことを気にかけて、急いだのかも知れません。
- ・「この世」の社会教育は、「新谷学校」でご指導を受けた卒業生とともに、力を合わせて推進していくことをお誓いいたします。
- ・どうぞ安らかに・・・。